

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2023年2月)

【内政】

- 12日、国民議会議員就任式が開催され、第9立法府が開会した。ヴラヴォヌ前国民議会議長は再選された。議員数は計109名、うち女性議員は29名。(13日各紙)

【外政】

- 1日、シューカン駐ベナン米大使がイシフ憲法裁判所長官に表敬し、1月8日に実施された国民議会議員選挙における同裁判所の役割を賞賛した。(2日、La Nation 紙他)
- 16日、タロン大統領はベナン国軍参謀長等を伴ってブルキナファソを訪問し、トラオレ暫定大統領と会談した他、ブルキナファソ在住ベナン人コミュニティとも交流した。(17日各紙)

【治安】

- ベナン税関は、ボルグ(BORGOU)県チャウル(Tchaourou)付近で、密輸品である薬莢計1万5千個を押収した。(17日、Le Matinal 紙他)

【経済】

- 2日、在ベナン日本国大使館は、「アボメ・カラヴィ市グロ・ジベ第一中学校校舎建設計画」の引渡式を実施した。(3日、L'Économiste 紙他)
- 10日、在ベナン日本国大使館は、「ドボ市ホントン中学校及びダドウエ中学校校舎建設計画」の引渡式を実施した。(14日、L'Économiste 紙他)

【文化・その他】

- 4日、元日本留学生・奨学生協会(2A2BJ)は2022年度総会を開催した。(6日、Le Matin Libre 紙)
- 22日、在ベナン日本国大使館は、令和4年度天皇誕生日祝賀レセプションを開催し、津川貴久大使及びジンス外務・協力省次官等が出席した。(24日各紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L'Événement Précis 紙、L'Économiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- トランスペアレンシー・インターナショナルが公表した2022年腐敗認識指数において、ベナンは100点中43点を獲得し、順位は180か国中72番目(アフリカ大陸内上位10番以内)であった。(2日、L'Économiste 紙、3日、La Nation 紙及び Le Matinal 紙)
- 8日、外務・協力省等の人事が閣議決定され、同省アジア大洋州局長、法務局長及び国際機関・平和維持局長を含む幹部複数名が異動となった。(9日各紙)

- ・ 12日、国民議会議員就任式が開催され、第9立法府が開会した。ヴラヴォヌ前国民議会議長は再選された。ジョベヌ進歩再生党(UPR党)党首、ビオ・チャネ開発及び省庁間連携担当国務大臣、サリマン幼少・初等教育大臣、アダンビ水利・鉱山大臣、ヘホメ・スポーツ大臣及びアビンボラ観光・文化・芸術大臣は議員辞職し代理人に議席を譲った。議員数は計109名、うち女性議員は29名(議員辞職に伴う議員構成変化により1名増加)。(13日各紙)
- ・ 21日、ペン駐ベナン中国大使がヴラヴォヌ国民議会議長に表敬し、栗戦書第10代全国人民代表大会常務委員長名の議長再選祝賀書簡を転達した。(22日各紙)
- ・ 22日、ベナン訪問中の露連邦議会議員団はヴラヴォヌ国民議会議長と会談し、同議長を3月にモスクワで開催予定の議員会合に招待した。(24日、L'Événement Précis 紙)

【外政】

- ・ 1月31日、ベナンはモロッコとの間で、研究協力や人的交流等を含むベナン漁業の強化のための活動に係る了解覚書(MOU)に署名した。(7日、Le Matinal 紙)
- ・ 1日、シューカン駐ベナン米大使がイシフ憲法裁判所長官に表敬し、1月8日に実施された国民議会議員選挙における同裁判所の役割を賞賛した。(2日、La Nation 紙及び Le Matinal 紙、3日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 9日、ベナン大使として着任したキューバ共和国大使及びトルコ共和国大使並びにIOM常駐代表(駐ガーナ)が信任状写しをアベノンシ外務・協力大臣に提出した。(10日、La Nation 紙)
- ・ 16日、タロン大統領はブルキナファソを訪問し、トラオレ暫定大統領と会談した他、ブルキナファソ在住ベナン人コミュニティとも交流した。(17日各紙)
- ・ 18日、第36回アフリカ連合定例総会が開催され、アベノンシ外務・協力大臣が出席した。同大臣はカガメ・ルワンダ大統領とも会談した。(20日、La Nation 紙及び Le Matinal 紙)

【治安】

- ・ 1月30日夜、アリボリ(ALIBORI)県バニコアラ(Banikoara)のギンバグ(Guimbagou)村で武装集団が小学校に放火し、駆けつけた村長を殺害した。(1日、La Nation 紙及び Le Matinal 紙)
- ・ 1月31日、モロッコ国軍統合参謀本部でベナン・モロッコ両国軍参謀長が会談し、ベナン国軍兵士のモロッコ国軍教育施設における教育等の両軍協力につき協議した。(1日、La Nation 紙)
- ・ 3日から9日、コトヌ、ポルトノボ及びアボメ・カラヴィにおいて、サイバー犯罪実行の疑いで28名が逮捕された。(13日、Le Matinal 紙)
- ・ ベナン税関は、ボルグ(BORGOU)県チャウル(Tchaourou)付近で、密輸品である薬莖計1万5千個を押収した。(17日、Le Matinal 紙、20日、La Nation 紙)

【経済】

- ・ 1月16日、ベナン・ターミナル社は、船舶・港湾施設の保安の確保等に関する国際規格(ISO)適合証明書を付与された。(2日、La Nation 紙、6日、L'Événement Précis 紙)

- ・ 2日、在ベナン日本国大使館は、令和4年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「アボメ・カラヴィ市グロ・ジベ第一中学校校舎建設計画」の引渡式を実施し、近藤茂臨時代理大使が出席した。(3日、L'Événement Précis 紙及び L'Économiste 紙、6日、Le Matinal 紙)
- ・ 6日、ベナン政府とUNDPは「気候変動の悪影響に晒された国境地帯におけるコミュニティの強靱性強化(2RCAZF)」(ベルギー資金供与)に係る協定に署名した。(7日及び8日各紙)
- ・ 8日、内水面養殖普及プロジェクトフェーズ2(PROVAC2)の枠内で、三輪自動車、小型手漕ぎ漁船及び漁網等が養殖業者に供与された。(9日、Le Matinal 紙、10日、L'Économiste 紙、14日、Le Matinal 紙)
- ・ 8日、USAIDは、保健省へのピックアップトラック及びスマートフォン等の引渡式を実施し、ウンパティン保健大臣及びアンダーソンUSAID常駐代表が出席した。(10日、Le Matinal 紙)
- ・ 10日、在ベナン日本国大使館は、令和4年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「ドボ市ホントン中学校及びダドウエ中学校校舎建設計画」の引渡式を実施し、三宅書記官が出席した。(14日、L'Économiste 紙、15日、Le Matinal 紙、17日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 14日、ベナン政府とUNDPは「ベナンにおける対気候変動強靱性強化のための荒廃地及び森林生態系の回復及び活用」実施に係る文書に署名した。(15日、La Nation 紙、Le Matinal 紙及び L'Événement Précis 紙)
- ・ 21日、米ミレニアム・チャレンジ・コーポレーション(MCC)は、ベナン電力公社(SBEE)への発電機及び交換部品等搭載車両3台の引渡式を実施し、ブラウトン常駐代表が出席した。(23日、Le Matin Libre 紙)

【文化・その他】

- ・ 1月20日、エフドキモフ駐ベナン露大使とアボメ・カラヴィ大学学長の面会において、同大学内への露国内大学の支部設置が露大使から提起された。(1日、L'Économiste 紙)
- ・ 4日、元日本留学生・奨学生協会(2A2BJ)は年次総会を開催した。(6日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 4日及び5日、ベナン空手連盟主催で、コートジボワール人師範(黒帯・八段)による技術講習会が実施された。(6日、Le Matinal 紙)
- ・ 13日付回章により、ベナン国内20自治体において、女子生徒を対象とする高校の学費無償化が導入された。(17日、La Nation 紙及び L'Économiste 紙)
- ・ 17日、地上デジタルテレビ放送の放送が開始され、アボメ・カラヴィで実施された式典にズマルICT・デジタル化大臣等が出席した。(20日各紙)
- ・ 17日、ベナン代表スポーツチームの愛称は、男子は Guépards(ヒョウ)、女子は Amazones(アマゾン)に変更された。(20日、La Nation 紙及び L'Économiste 紙、21日、Le Matinal 紙)
- ・ 18日、コトヌ市内で子ども(10歳から13歳)対象の全国空手大会が開催された。(22日、Le Matinal 紙、23日、Le Matin Libre 紙)
- ・ 22日、在ベナン日本国大使館は、令和4年度天皇誕生日祝賀レセプションを開催し、津川貴久大使及びジンス外務・協力省次官等が出席した。(24日各紙)